

4月17日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとめられました。本調査は、国語と算数、理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。



### 総合結果（国語・算数・理科）

国語、算数、理科ともに全国、京都府・京都市の平均正答率を大きく上回りました。無回答率も極めて低く、粘り強く考えようとしていたことがうかがえます。6年生時のジョイントプログラムの結果からも安定して力がついていると言えます。全問題において正答率が京都市平均より高いこともうれしいことです。

### 国語科より

国語ではどの領域においても相対的に十分に高い正答率となっており、「読むこと」の領域では特に大きく上回っており、十分に力がついていると言えます。

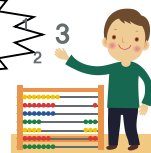
課題として、全国の平均正答率が低い設問ですが、国語では問3三（1）の設問において、本校も低い正答率となっております。これは、文章と表や図を結び付けて必要な情報を見つける問題です。

複数の資料を読んで、関係ある言葉を見つけ、正しい解釈をしないとはいけません。

### 算数科より

全体としてよくできています。特に知識や技能に関するほとんどの問題で満足できる正答率となりました。課題となるのは全国的に低かった問題です。問題③－(2)です。異分母分数の加法を説明する問題は、低い正答率となりました。昨年度も報告しましたが、知識、技能を身につけて問題を解くだけでなく、説明を伴い、概念を理解するということ意識しなければなりません。

つまり、〇〇ということだと思います。



### 理科より

理科においても、全国や京都府・市と比較しても上回っております。授業の中で体験的な学習経験が多いこともアンケートから分かりました。また、多くの児童の実感としても理科の学習がよく分かったと、アンケートに答えていました。領域としては、生命の領域で特に高く、全国と比較して23ポイントも上回っておりました。全国も京都府・市そして本校も低かったのは2（1）の問題です。アルミ・鉄・銅の中から電気を通すか通さないか、磁石に引き付けられるかどうかという問題です。

今回、教職員も国語と算数の問題、特に本校でも正答率が低かった問題を解きましたが、大人でも一瞬考えてしまうような問題でした。

令和7年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料が掲載されているページです。

下記リンクから、問題を見ていただいて、ぜひとも挑戦してください。

<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>



## 児童質問紙調査から

Q 自己有用感・規範意識についてのアンケート「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の平均回答率（％）

自己有用感 規範意識	自分には良 いところ がある	先生はあな たの良 いところ を認 めてく れてい る	将来の夢 や目標 をも っている	人が困 っている ときは 進んで 助け ていま すか	いじめ はど んな理 由があ っても いけ ない こと だと思 いま すか	人の役 に立 つ人 間にな りたい と思 いま すか
新 町 小 学 校	95.7	97.1	91.3	97.1	98.5	98.6
京 都 府	86.1	91.5	82.1	93.1	97.3	96.3
全 国	86.9	92.2	83.1	93.7	96.9	96.4

どの質問に対しても、自己有用感を感じて、自分にできることをやり切ろうとする意識が見られます。これらの結果は学校教育だけで育まれるものではありません。普段から家庭でも地域でも、子どもをほめて、認めて、社会のルールについても年齢に応じて教えていただいた結果かと考えます。

地域との関り	地域をよくするために何かしたいと思 いますか	地域の大人に関わってもらったり、一緒 に遊んでもらったりしていますか
新町小学校	85.5	49.3
京都府	80.4	38.4
全国	81.3	39.4

## 全体を通した本校の成果と課題

本校では、「自立・共生・創造」という学校教育の理念を掲げています。この3つは1年や2年でできるものではありません。コツコツと小学校や中学校、そして大人になっても積み上げていかなければならない資質だと思います。点数で見える学力に関して言えば、新町小学校の児童は非常に高い学力で、周囲の支援を受けながら力を発揮してくれたと思います。

しかし、学習の主体となる子どもたちですが、「**自分で学習する習慣**」は身につけているのでしょうか。学習は自らの現在と将来のために行うものです。学習における自立は、自分で設計し、実行し、評価できることだと考えます。今後、卒業生となる6年生には、教師が出す宿題や学習塾に頼らない学習習慣を身につけ、自立した学習者となってくれることを願っています。

## 保護者の皆様へ

全国調査は、順位を競うものでもありません。ジョイントプログラムも児童の現状を知るためだけではありません。自らを知り、課題となっている点に気づくことができます。その後、解決方法は何か考え、課題となっている部分を改善しようと学習できる子どもになってほしいです。

「高得点でよかったね。」「がんばったね。」と言ってほめた後に「できなかったところ、失敗したところを一緒に見直そうか。」「もう一回、その問題をやってみたら。」と背中を押していただきたいです。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。これからの社会で活躍するために必要な力を身につけていくためにも引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。